

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(15) これからの生活③

世の中は50歳以上の人の悩みを本当に理解しているのか、理解しようとしているのか、適当に理解しているような形をとっているだけなのか、適当にお茶を濁しているのか、いろんなことが見えてきます。

世の中は無責任に会話し、適当にわかっている振りをし、真剣に考えているようなポーズをとっています。

世の中は平均的な生活があるように語り、適当に色分けをし、本当の悩みを無視し、何とか大きな悩みを持たず生きていけるような錯覚の世界を作り出しているような気がします。

現実の社会はコントロールされ、悩み・問題のないような社会で、多くの人が無事生きて生けるように説明されている感があります。本当にそれを信じて生きている人が多いのかどうか疑問があります。社会的に大きな問題になり、パニックにならないようにしているようなところが感じられますし、そのことは、今も昔も変わりなく続けられているような気がします。

今日、明日、未来を強く生きていく素晴らしさを感じ毎日を生生活することは、素晴らしい人間の生き方だと思いますが、本当にそう思って生活ができるのでしょうか、社会一般に言われているような単純な世の中ではないと思います。

現実には、自殺、逃避、精神的な病に侵され、悩みが渦を巻いているのが現実の姿だと感じますし、そのことで生きる力を奪い取っている事実をありのままに、生きることの定義を考えて見るなら、今日、明日、未来を人間として生きていく権利を持つことができるのかどうかの生活だと思います。

多少の悩みはあっても、そのことで落ち込むことない生活を送ることが本当にできるならば嬉しいことですし、人間らしいです。現実を見ると本当はありえないように感じますし、その中身について具体的に一つ一つ見ていくと、本当に解決策が用意されているのか、用意できるのかにかかってくる。

その内容を検討してみると、今置かれている状況は解決できないことが多いと思いますし、個人の力で解決の方法を見つけ出すことが求められているような状態です。

個人の力で金銭、健康、人間関係を整理できるのか、できる力を教えられてきているのか、その方法を示されているのかです。

大きな問題のない人は一部で、多くの人が無事生きていこうとしているのが現実です。その中で悪い考え方も発生しているようですし、その考え方に吸い込まれていく人も多く見かけます。

生きる年齢が長くなることは良いことですが、不自然な生きかたをしなければならぬ人も多くいるのが現状です。

深刻な問題で、その解決策、ベターな方法があるのかが、見えてこないのも現実ですし、生きることの難しさがクローズアップされているのもまた現実です。